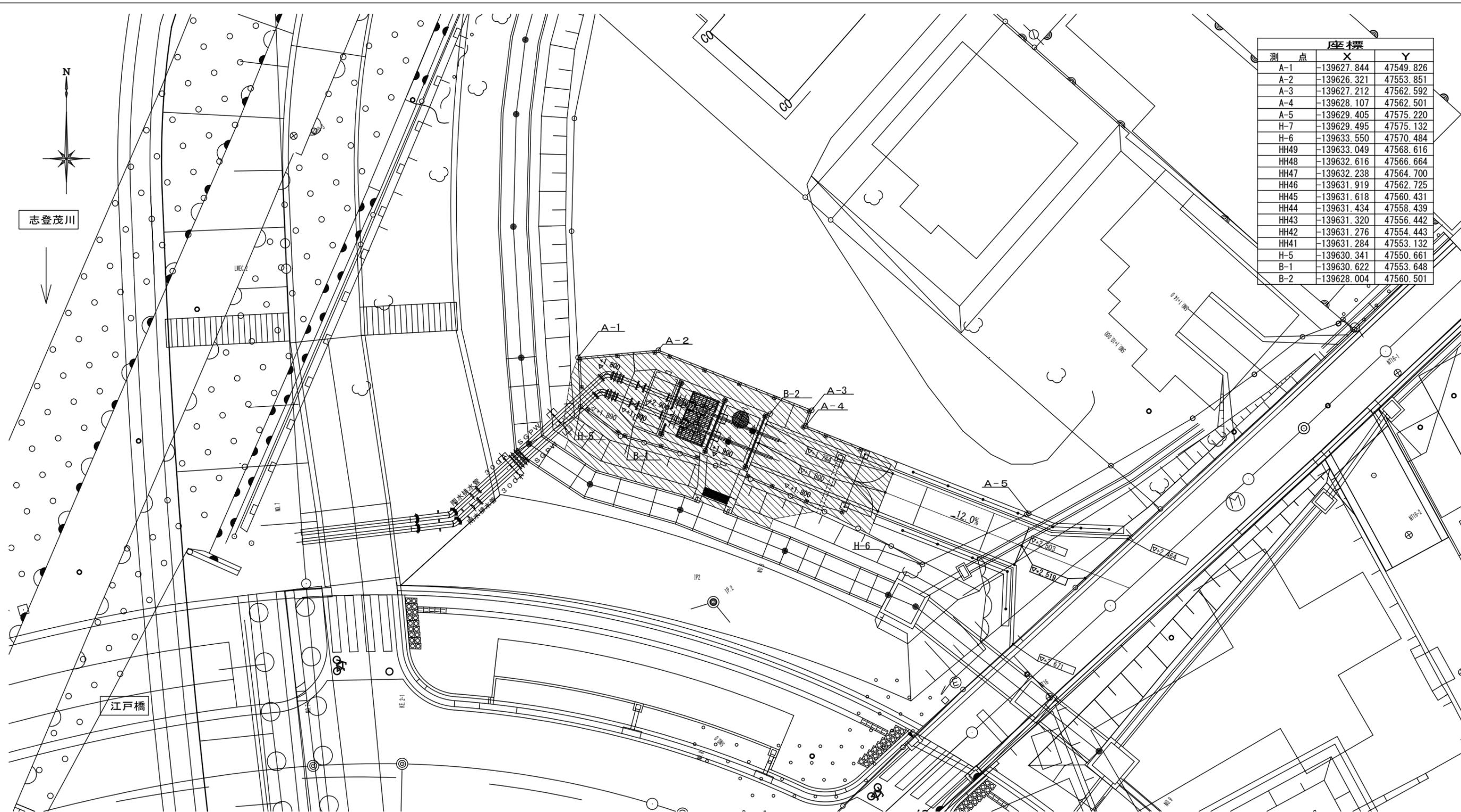
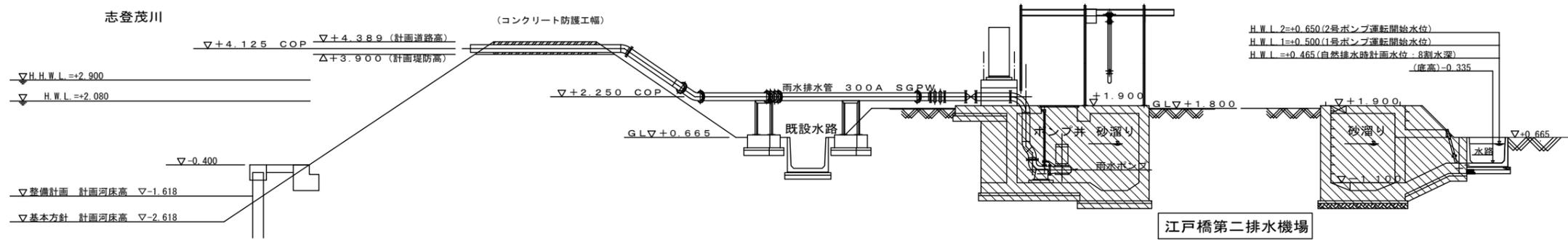


座標		
測点	X	Y
A-1	-139627.844	47549.826
A-2	-139626.321	47553.851
A-3	-139627.212	47562.592
A-4	-139628.107	47562.501
A-5	-139629.405	47575.220
H-7	-139629.495	47575.132
H-6	-139633.550	47570.484
HH49	-139633.049	47568.616
HH48	-139632.616	47566.664
HH47	-139632.238	47564.700
HH46	-139631.919	47562.725
HH45	-139631.618	47560.431
HH44	-139631.434	47558.439
HH43	-139631.320	47556.442
HH42	-139631.276	47554.443
HH41	-139631.284	47553.132
H-5	-139630.341	47550.661
B-1	-139630.622	47553.648
B-2	-139628.004	47560.501



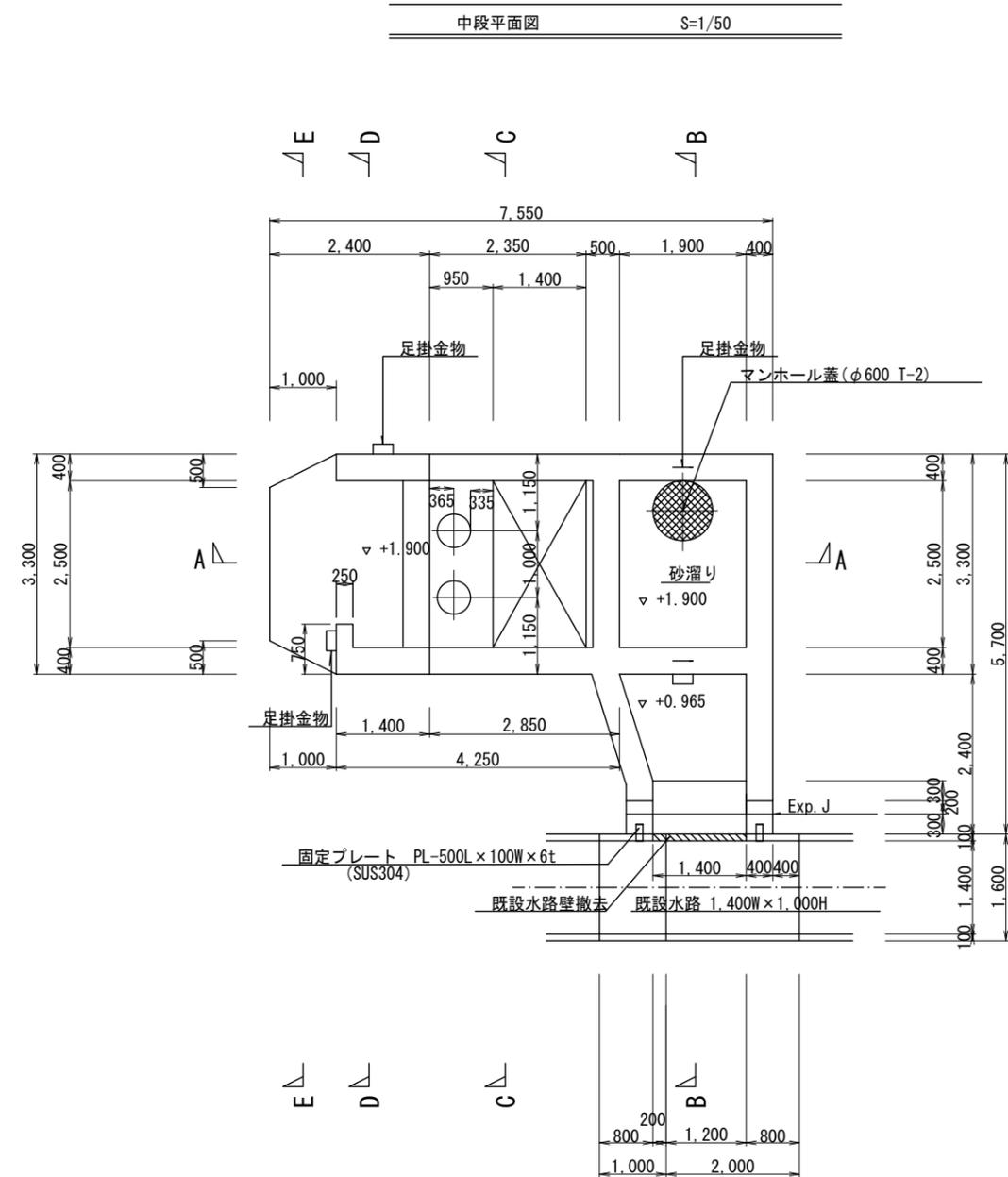
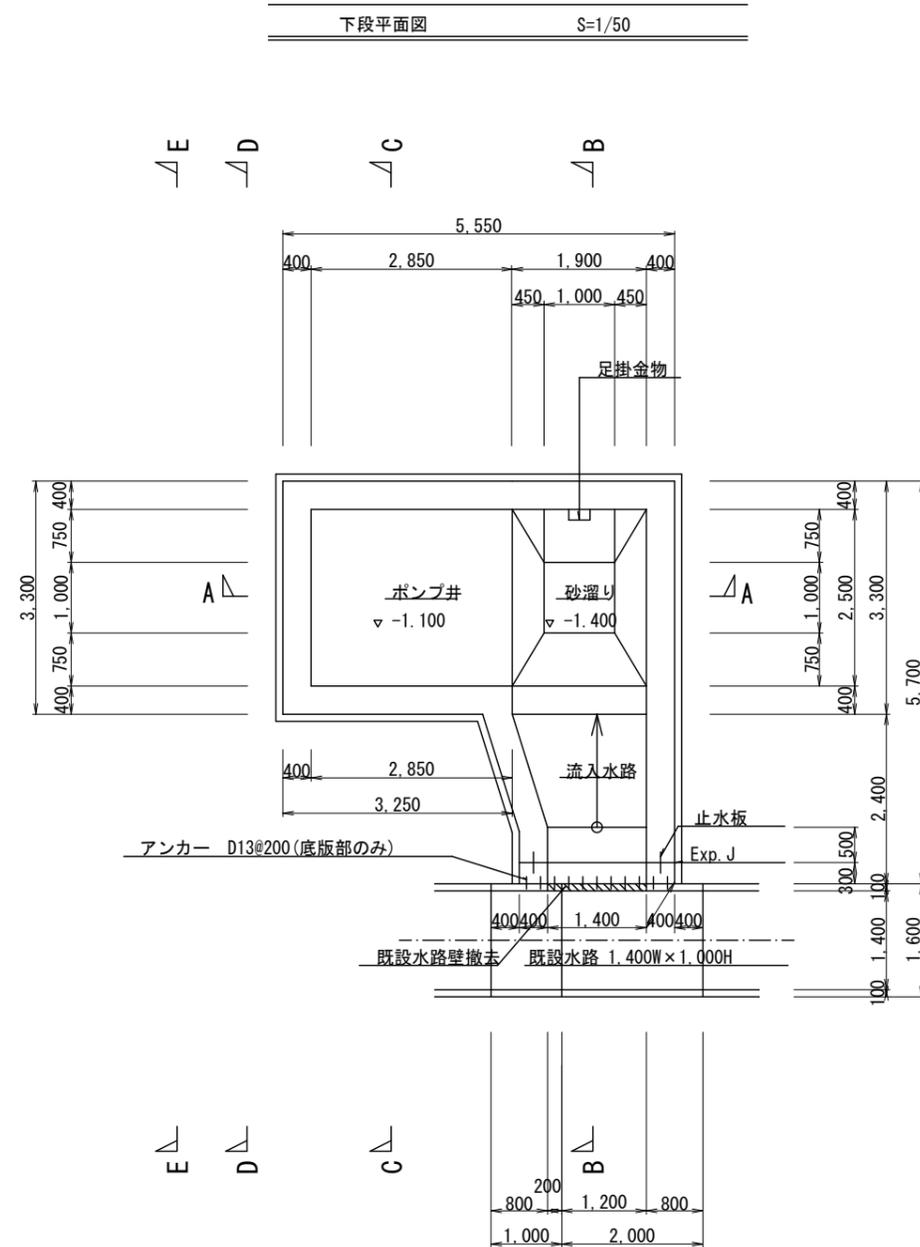
水位関係図 S=1/100

今回施工範囲
※雨水ポンプ・排水管・スクリーンは別途工事



※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図面名	一般平面図・水位関係図		
縮尺	1:100	図面番号	1/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		

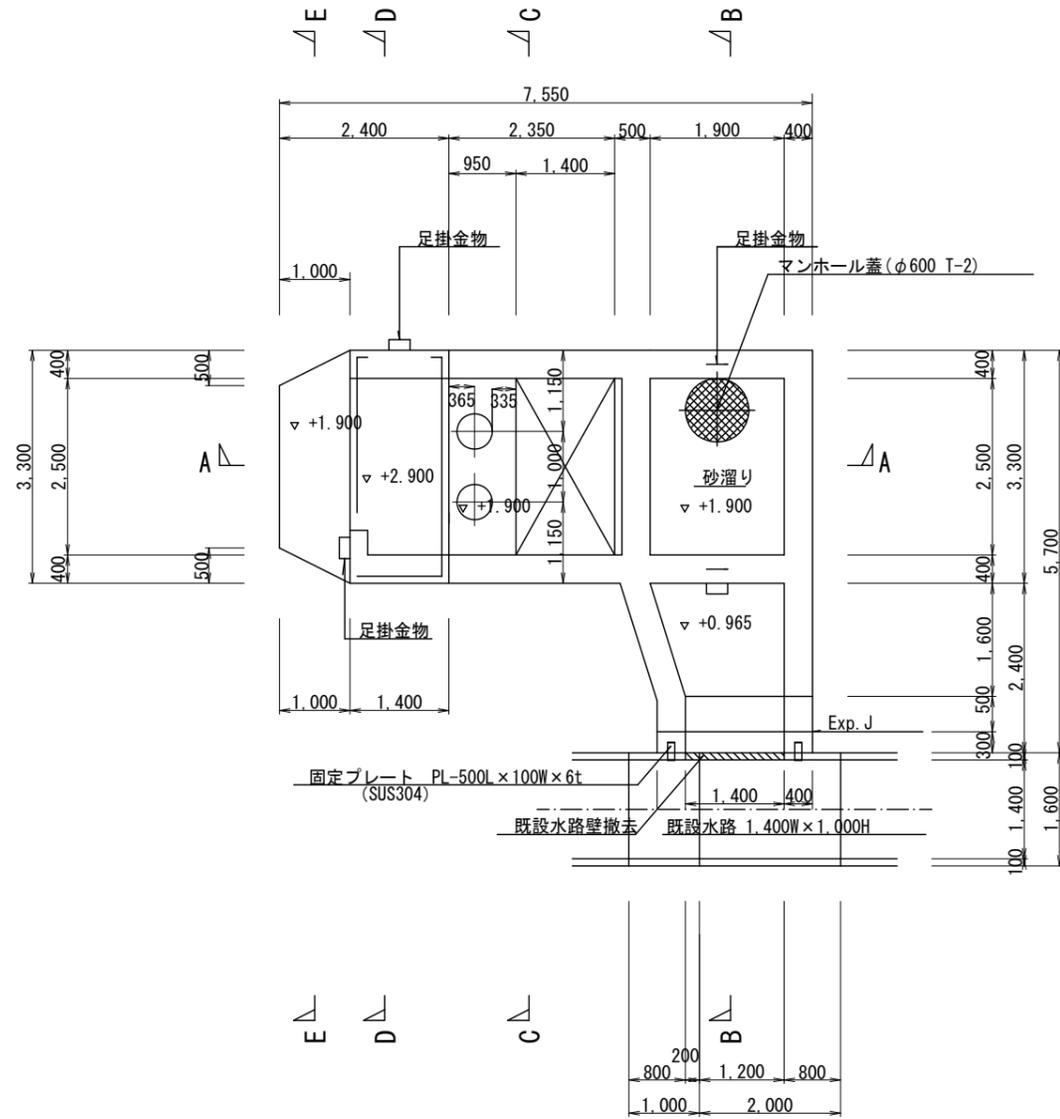


柱) 底版部アンカーの既設水路埋め込み長は12D以上とし、築造する底版部への定着長は20D以上とする。

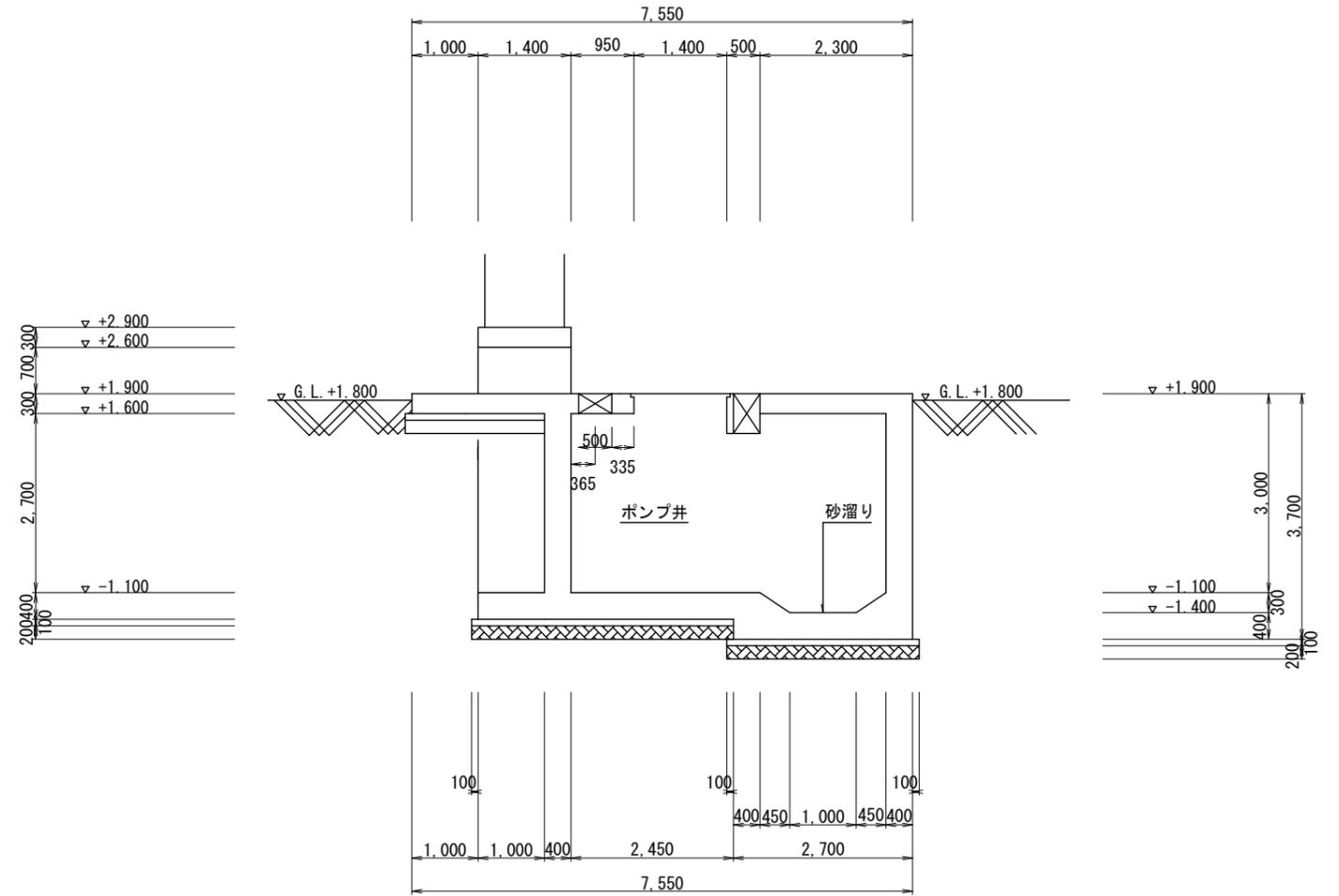
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図面名	施設平面図		
縮尺	1:50	図面番号	2/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		

上段平面図 S=1/50

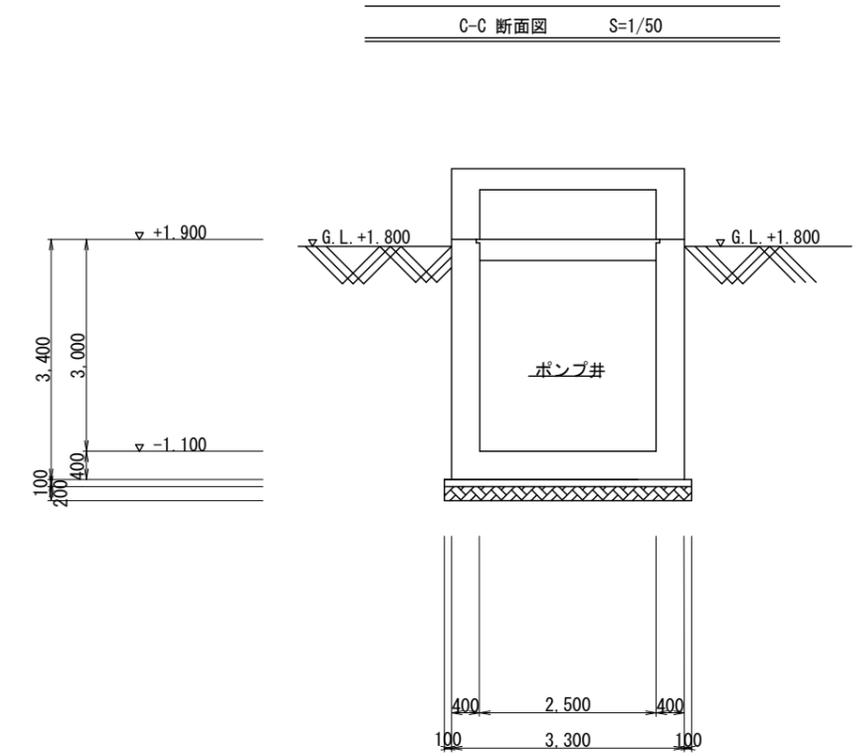
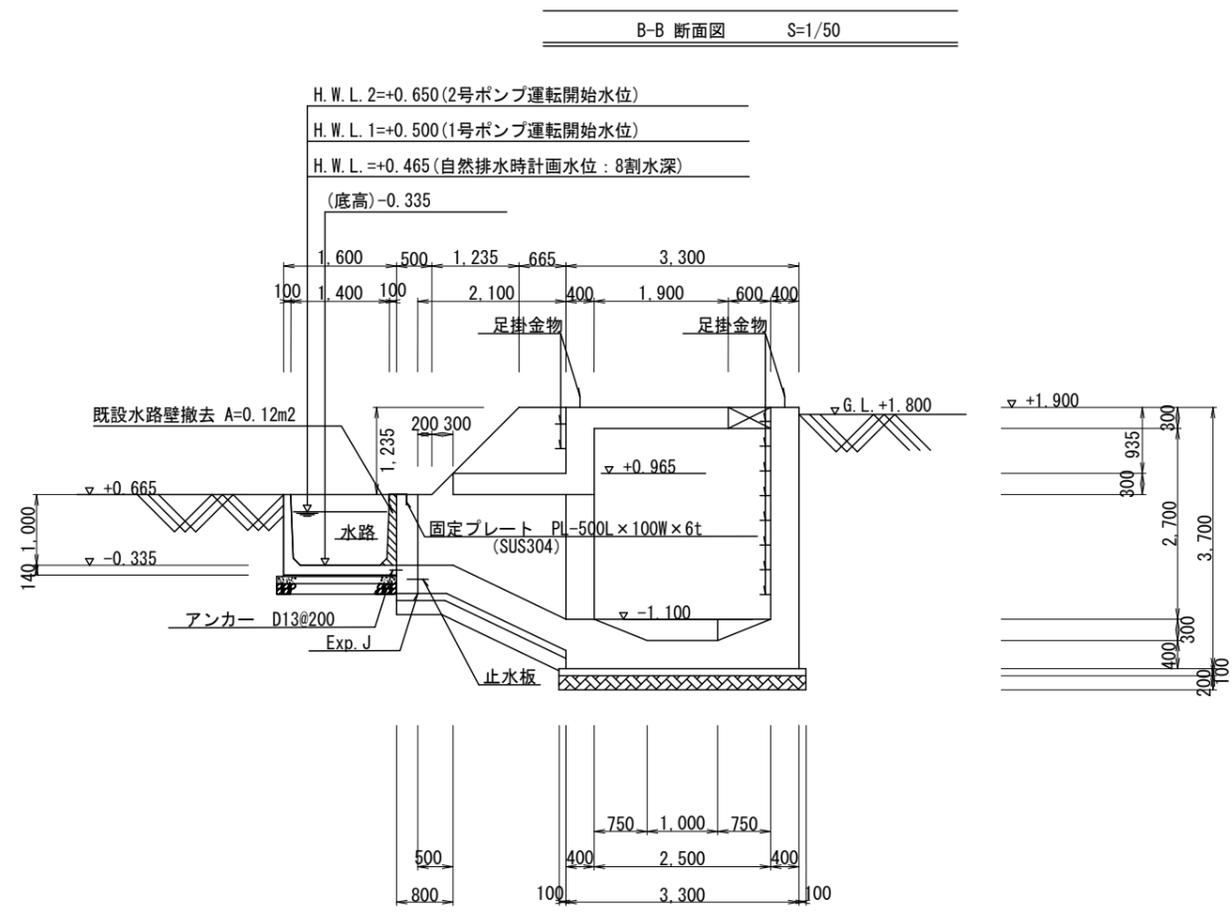


A-A 断面図 S=1/50

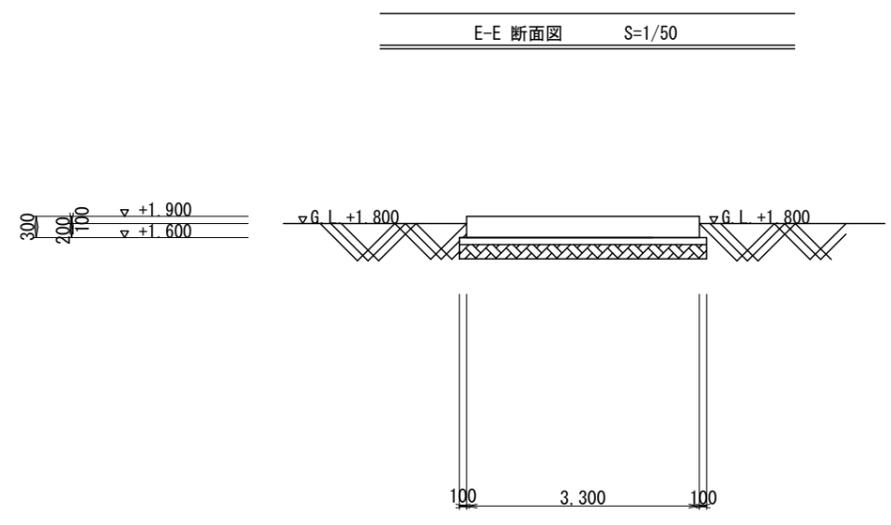
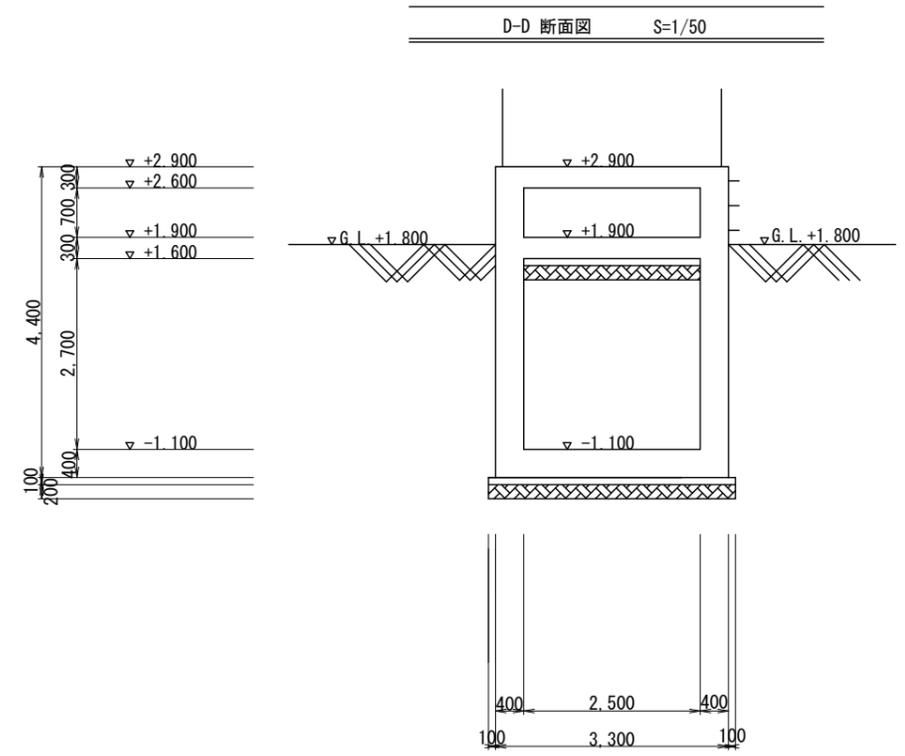


※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図面名	施設平面図・断面図		
縮尺	1:50	図面番号	3/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		



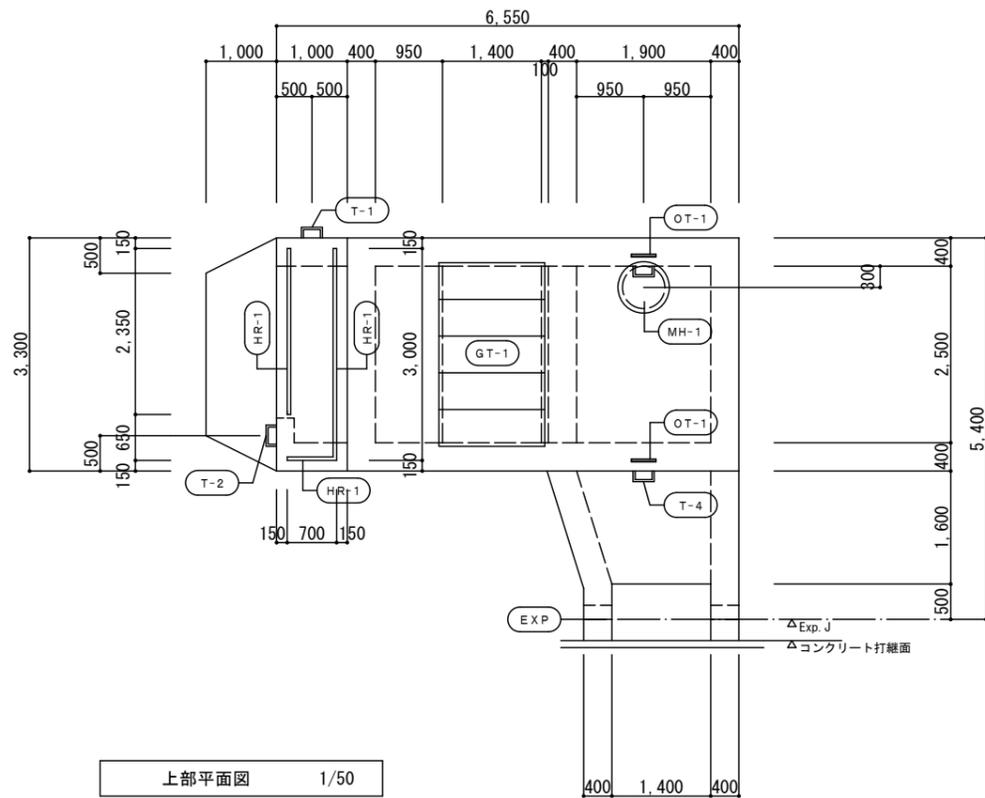
柱) 底板部アンカーの既設水路埋め込み長は12D以上とし、築造する底板部への定着長は20D以上とする。



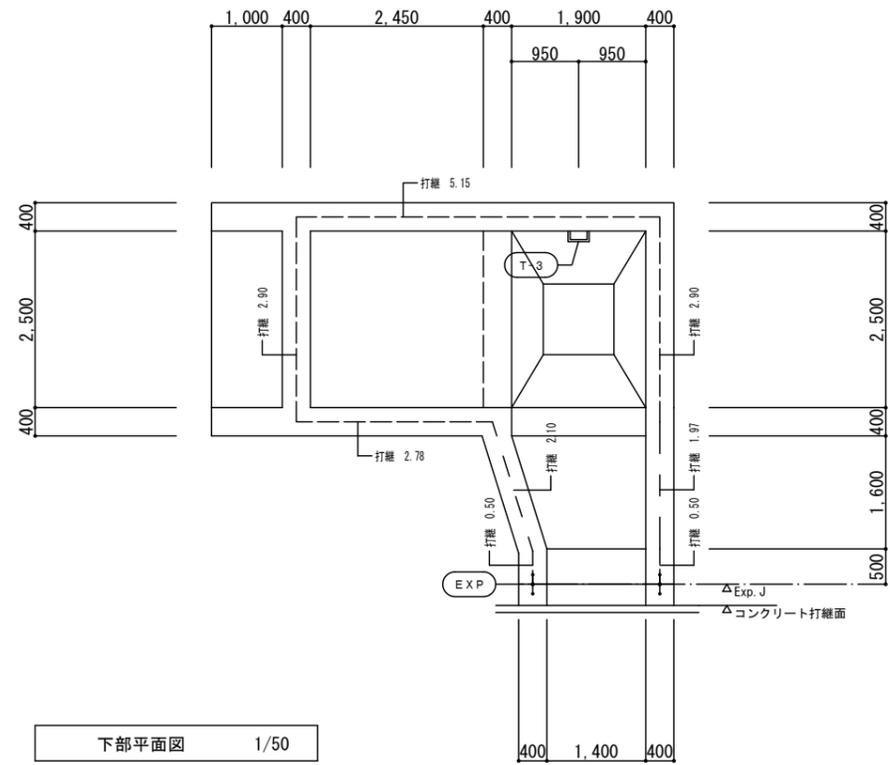
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図面名	施設断面図		
縮尺	1:50	図面番号	4/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		

符号	撤去項目	備考
HR-1	アルミ手摺 (一般部) H=1,100	柱脚ベースポストタイプ
GT-1	床用グレーティング	鋼製
MH-1	鋳鉄製マンホール蓋φ600	施錠付 T-2
T-	足掛金物 W=300	ポリプロピレン防錆被覆タラップ
OT-1	落込み取っ手 W=300	ステンレス製
EXP	伸縮継手工	耐震止水板

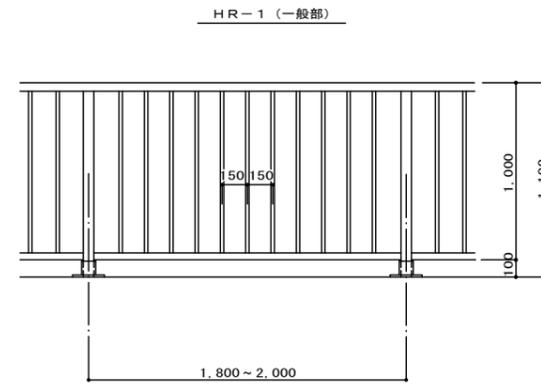


上部平面図 1/50



下部平面図 1/50

HR-1 アルミ手摺標準図

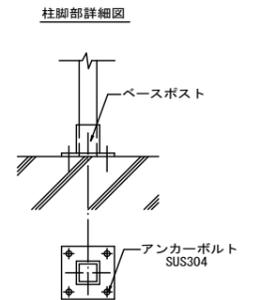


形状寸法表 (単位mm)

	支柱間隔	笠木	手摺子間隔	足掛りよりの高さ	下部の隙間	控柱
廊下・バルコニー	1,800 又は2,000	—	@150	1,000	100	—
部材厚	3mm以上	3mm以上	—	—	—	3mm以上

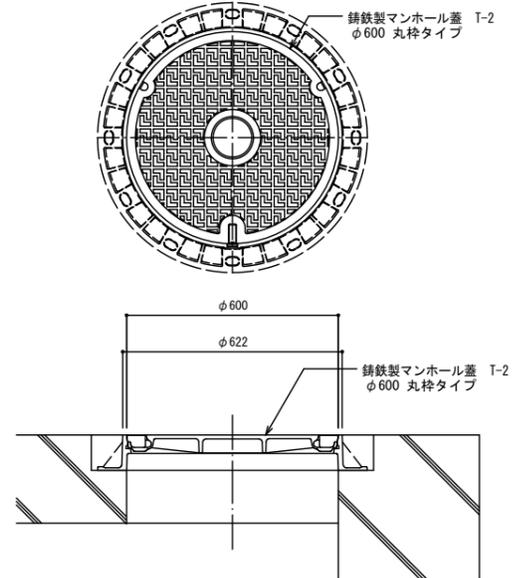
設計条件

部材名	荷重方向	設計条件	
笠木	水平方向	設計耐力	1.5 kN/m
		たわみ量	500N/mで1/500以下かつ5mm以下 局部荷重500Nで1/100以下
	垂直方向	設計耐力	1.0 kN/m
		たわみ量	500N/mで1/500以下かつ5mm以下 局部荷重500Nで1/100以下
支柱	水平方向	設計耐力	2.7 kNまたは3.0 kN
		たわみ量	局部荷重500Nで1/100以下



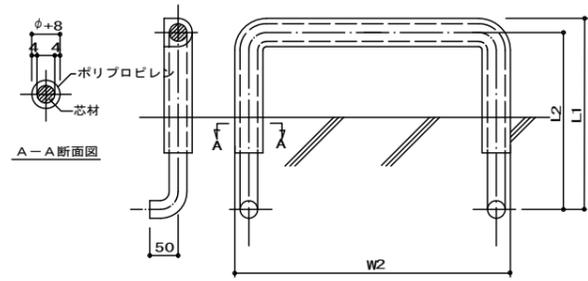
- 仕様・注記
- 材種は、JIS H4100によるA6063S-T5またはA6063S-T6またはA6061S-T6とし押出し形材を使用する
 - 表面処理は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 14.2.1表のB-1種とする
 - 支柱、笠木、控柱には補強材を使用しない。その他の部位に使用する補強材はJIS G3101によるSS400とし亜鉛メッキはJIS H8610の5級(クロメート被膜はJIS H8625のCM2C)以上とする
 - 小ネジの類はステンレス製(SUS304、SUS305J1またはSUSXM7)とする
 - 現場取付作業以外の組立などは工場製作とする。伸縮目地は必要に応じて設ける
 - 切断面の処置はバリ等を適切な方法で除去する。端部の小口は同材にてふたをして仕上る
 - 設計耐力及びたわみ量は、工場にて試験を行い監督職員に報告する。なお、公的試験場の試験成績書をもって、これに代える事が出来る
 - 床開口部で手摺を設置していない箇所については、現場にて、落下防止処置を実施のこと

MH-1 鋳鉄製マンホール蓋φ600



※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内
図面名	付帯設備詳細図(1)
縮尺	図示 図面番号 5/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課

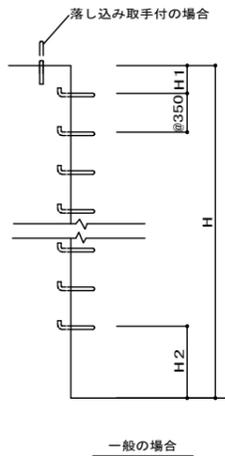


形状寸法表 (参考)

有効幅	L1	L2	H	φ
○ 300	250	100	50	19
● 400	300	150	50	22

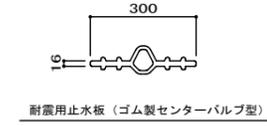
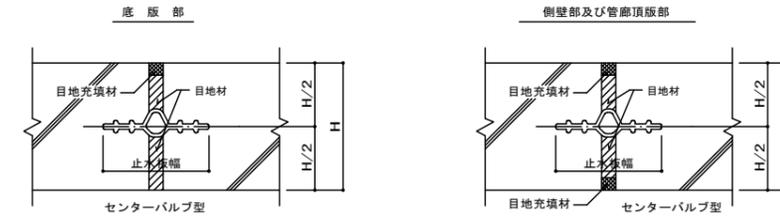
注記

- 1) 壁に100mm以上埋め込む
- 2) 足掛かり部のスリップ止めは150mm以上必要
- 3) 350ピッチ取付けを原則とする
- 4) 可能な限り鉄筋に溶接する
- 5) ポリプロピレン製及び合成ゴムと同等品の市販品で上記仕様準ずる時は承認する
- 6) 形状寸法表の㊦印の有るものを適用する
- 7) 手掛り金物として落とし込み取手を設る。手掛り金物は前面に手摺等有る場合には設置しない。尚、足掛金物が向かい合って設置される場合等は1箇所のみ設る



足掛金物リスト

符号	H	H1	H2	本数 (1箇所当り)	落とし込み取手 (1箇所当り)	箇所数	備考
T-1	1,100	200	200	3	—	1	
T-2	1,000	200	100	3	—	1	
T-3	3,000	200	350	8	1	1	
T-4	935	235	350	2	1	1	



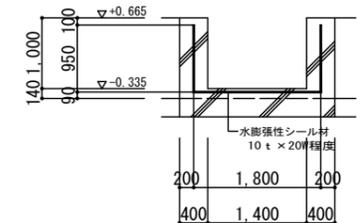
部材の形状と材質

品名	形状	材質
止水板	耐震用センターバルブ型	ゴム系
目地材	t = 20mm	瀝青系
目地充填材	20 x 20mm	ウレタン系

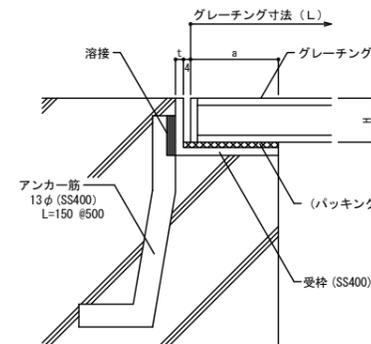
特記事項

1. 耐震用 (伸縮可とう吸収型) とする。
2. 沈下量100mm・伸縮量+60~-30mmとする。

EXP 止水板配置図 1/50



コンクリート打継面シール材配置図 1/50



グレーチング形式選定表 (参考)

注) バーピッチ、H、a、t、は床用 (歩行用) の参考値である。

A. 鋼製: 設計荷重 3.5kN/m²

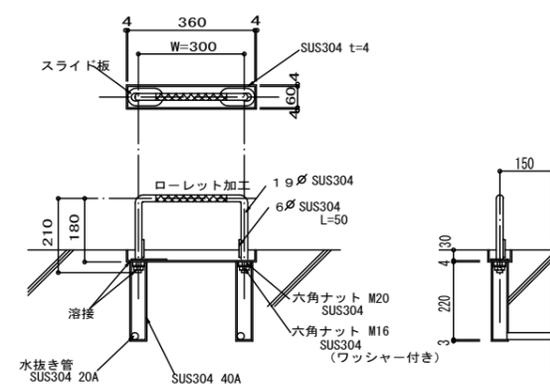
L (mm)	バーピッチ (mm)	H (mm)	a (mm)	t (mm)
~ 500	30	19	50	4.5
501~1,200	30	25	50	6.0
1,201~1,500	30	32	50	6.0
1,501~1,700	30	38	50	6.0
1,701~1,900	30	44	50	6.0
1,901~2,100	30	50	50	6.0

注記

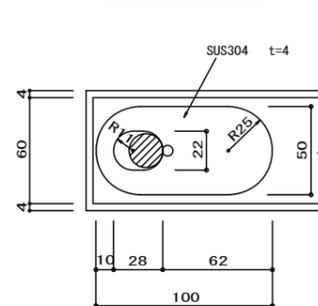
- 1) グレーチング、枠は既製品とし、製造所の形状寸法とする。
- 2) グレーチング、枠は同材質のものを使用する。
- 3) パッキングが必要な場合は受枠側に接着する。
- 4) 蓋には荷重表示を行う。
- 5) 設計荷重は歩行用 3.5kN/m² とする。
- 6) 許容たわみ量は、歩行用 L/300以下とする。
- 7) 多雪地域は、ラバー付を標準とする。
- 8) スベリ止めの有無を明記すること。
- 9) 車両用は、別途 T 荷重仕様とする。

グレーチング蓋リスト

符号	開口寸法		蓋寸法		H	受枠 t	割付枚数 (参考)	箇所数	スベリ止め	備考
	L1	B1	L	B						
GT-1	1,400	2,500	1,500	2,600	32	6	5	1	—	



スライド板詳細図 1/2



注記 材質はすべてSUS304を用いる
水抜き管はすべて池側へ設ける

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内
図面名	付帯設備詳細図(2)
縮尺	図示 図面番号 6/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課

構造細目共通図(土木構造物)

1 特記事項

1.1 適用範囲

- (1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物に適用する。
- (2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1) 土木工事特記仕様書 2) 土木工事必携 3) コンクリート標準示方書・施工編 4) コンクリート標準示方書・構造性能照査編	土木学会 (2012年版) 土木学会 (2012年版)	(別紙による。)
---	--------------------------------------	----------

- (3) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と⊗印のある場合は、共に適用する。

1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は1.1表による。

1.1表 鉄筋の種類及び継手

種別	径
鉄筋の種類	※ D13 以上
鉄筋の継手	重ね継手 下記以外 ガス圧接 ・ D19以上の柱、梁主鉄筋 ・ D16以上の増設端の床・壁鉄筋 機械式継手 ・ 図面による

1.3 コンクリートの仕様

コンクリートは1.2表による。

1.2表 コンクリートの仕様

分類	コンクリート種別	設計基準強度 ₂ (N/mm ²)	スラブ (cm)	セメントの種類
鉄筋コンクリート	※普通コンクリート	※24	※12	※高炉セメントB ・ 普通ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント
無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※8	※高炉セメントB ・ 普通ポルトランドセメント

注1: 無筋コンクリートには均しコンクリートを含む。

1.4 砕石基礎工及び均しコンクリート工

砕石基礎工及び均しコンクリートは1.3表による。

1.3表 砕石基礎工及び均しコンクリート工の仕様

種別	厚さ (mm)
砂利または砕石	※ 200
均しコンクリート	※ 100

2 共通事項

2.1 用語の定義

本構造細目共通図中で使用する用語の定義は、2.1表のとおりとする。

2.1表 用語の定義

用語	説明
主鉄筋	各種限界状態を満足させるために計算し、配置される鉄筋。
配力鉄筋	応力を分散させる目的で、通常、主鉄筋に対して直角(スラブ、壁部材の場合)に配置される鉄筋
せん断補強鉄筋	せん断に抵抗するように配置される鉄筋
幅止め鉄筋	はりの水平用心鉄筋、スラブ、壁の主鉄筋あるいは配力鉄筋の厚み方向の間隔を確保するための鉄筋。

2.2 一般注意事項

- (1) 設計図は、監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 鉄筋の曲げ加工

鉄筋の曲げ加工は、3.1表及び3.2表を標準とする。

- (1) Dは、曲げ内法直径を示す。
- (2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1表 末端部

曲げ角度	折曲げ図	すべてのコンクリート		使用箇所
		SD345		
		D16以下	D19~D32	
180°		5d以上	5d以上	
135°		5d以上	5d以上	
90°		5d以上	5d以上	
135° 90°		5d以上	5d以上	幅止め鉄筋

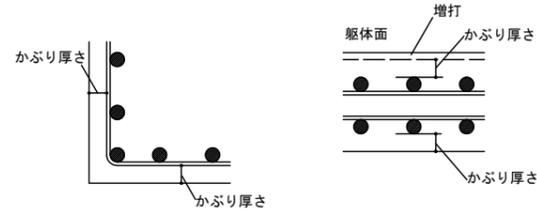
3.2表 中間部

曲げ角度	折曲げ図	すべてのコンクリート		使用箇所
		SD345		
		D16以下	D19~D32	
90° 以下		20d以上	20d以上	ラーメン隅角部
		10d以上	10d以上	折曲げ鉄筋

4 鉄筋のかぶり及び間隔

4.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋を除く)の外側から躯体面までの距離(4.1図)をいう。鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



4.1図 鉄筋のかぶり厚さ

4.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4.1表による。

- (1) 床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

4.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

構造部分の種類	スラブ	底版・フーチング		梁	柱、壁
		杭基礎下補筋	その他		
一般	40	7 杭基礎の補強を参照	60	40	40
水中・土中等	50		60	50	60

② 塩害対策地域の施工の場合

対照区分	構造部分の種類	スラブ	底版・フーチング		梁	柱、壁
			杭基礎下補筋	その他		
I	一般	70	7 杭基礎の補強を参照	70	70	70
	水中・土中等					
II	一般	50	7 杭基礎の補強を参照	60	50	60
	水中・土中等					

1: 部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
2: 「その他」は底版・フーチングの上下面及び側面とする。
3: 塩害対策地域区分は、土木工事特記仕様書による。

4.3 鉄筋相互のあき

4.3.1 梁・壁・床版

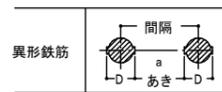
鉄筋相互のあき(a)は、下記(1),(2),(3)の最大値以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の 4/3 倍
- (2) 最小のあき 20mm
- (3) 異形鉄筋の直径(呼び名)以上

4.3.2 柱

鉄筋相互のあき(a)は、下記(1),(2),(3)の最大値以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の 4/3 倍
- (2) 最小のあき 40mm
- (3) 異形鉄筋の直径(呼び名)の 1.5 倍以上



(注) D: 鉄筋の最外径 d: 鉄筋直径(呼び名)

4.2図 鉄筋のあき

5 鉄筋の継手及び定着

5.1 鉄筋の継手及び定着

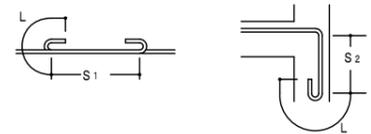
5.1.1 継手長及び定着長の基本

- (1) 鉄筋の継手及び定着の長さは、5.1表による。なお、定着長 $S_2 \cdot S_3$ は、3項による曲げ加工後の直線部分で確保する。ただし、主鉄筋の中心間隔が100mm未満の場合は、別途継手及び定着の長さを算出し図面に示すものとする。

5.1表 鉄筋の重ね継手及び定着の長さ(主鉄筋中心間隔100mm以上)

鉄筋の種類	鉄筋径区分	設計基準強度 (N/mm ²)	フックなし		フックあり	
			S ₁ :重ね継手長	S ₂ :定着長	S ₁ :重ね継手長	S ₂ :定着長
SD345	D16以下	24以上 27未満	50・d	45・d	40・d	35・d
	D19~D22		60・d	50・d	50・d	40・d
	D25以上		65・d	60・d	55・d	50・d

- (2) 径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 継手は相互にずらすことを原則とする。
- (4) フックのある場合の継手長及び定着長には、5.1図に示すようにフック部分Lを含まない。



5.1図 フックのある場合の定着及び継手要領

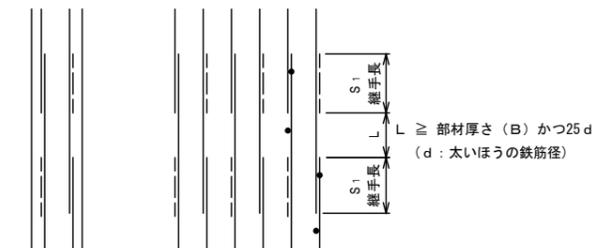
5.1.2 継手の特記事項

- (1) 継手は極力応力の小さい位置に設ける。
- (2) 異径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

5.2 隣り合う継手の位置

5.2.1 主鉄筋、配力鉄筋の重ね継手

- (1) 同一断面での継手の割合(集中度)は1/2以下(相互にずらす)とする。
- (2) 継手長さは、軸方向に相互にずらして設ける。
- (3) ずらす距離(L)は、部材厚(B)、かつ、太いほうの鉄筋径の2.5倍以上とする。
- (4) 前記(1)を確保できない場合は、基本定着長の1.7倍の継手長さとし、横方向の鉄筋で補強する。
- (5) 前記(1)を確保できない場合は、監督職員の承諾を得て、ガス圧接継手又は機械式継手工法を採用することができる。
- (6) 継手部の鉄筋のあきは、粗骨材の最大寸法以上とする。



※破線部は、同一平面にある鉄筋の上端と下端とで重ね継手位置を交互にすること、並びに同一断面にある鉄筋では、奥行き方向に重ね継手位置を交互にすることをそれぞれ示す。

5.2図 重ね継手工法

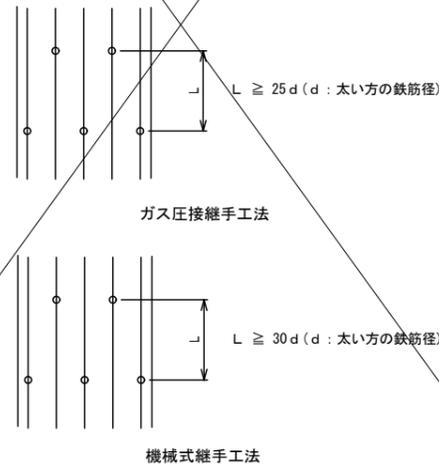
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図面名	構造細目共通図(1)		
縮尺	—	図面番号	7/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		

5. 2. 2 ガス圧接および機械式継手

主鉄筋、配力鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は以下のとおりとする。
 機械式継手は、ねじ節継手工法とし、土木学会「鉄筋継手指針(1982)」による。また、ねじ節継手工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員との承諾を得ること。

- (1) 同一断面での継手の割合(集中度)は1/2以下とする。
- (2) 継手は軸方向に相互にずらして設ける。
- (3) ガス圧接の場合のずらす距離(L)は、太いほうの鉄筋径の2.5倍以上とする。
- (4) 機械式継手の場合のずらす距離(L)は、太いほうの鉄筋径の30倍以上とする。



5. 3図 各種継手工法

6 配筋要領

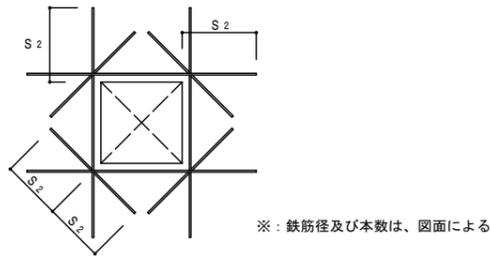
6. 1 壁

6. 1. 1 一般事項

- (1) 壁の鉄筋の継手及び定着は、5. 1項及び5. 2項に基づくものとする。
- (2) 幅止め鉄筋の鉄筋径及び間隔は、図面による。

6. 1. 2 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強鉄筋の長さ及び位置は、6. 1図を標準とする。

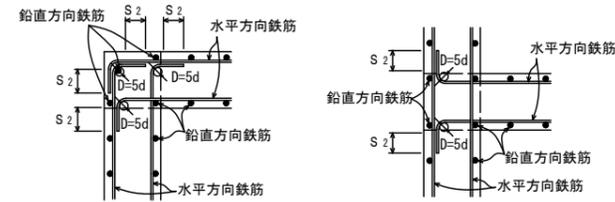


6. 1図 壁開口部の補強要領

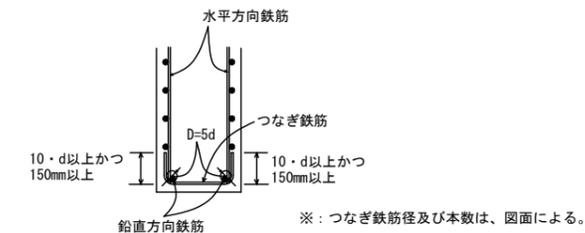
- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6. 1. 3 壁と壁の交差部及び端部

- (1) 壁と壁の交差部の鉄筋加工要領は、6. 2図による。
- (2) 壁の端部の鉄筋加工要領は、6. 3図による。



6. 2図 壁と壁の交差部配筋要領図

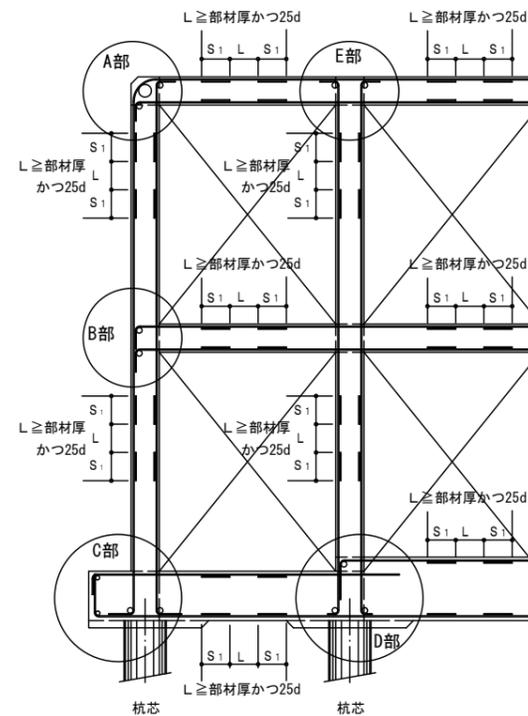


6. 3図 壁の端部配筋要領図

6. 1. 4 壁と床版・底版の交差部

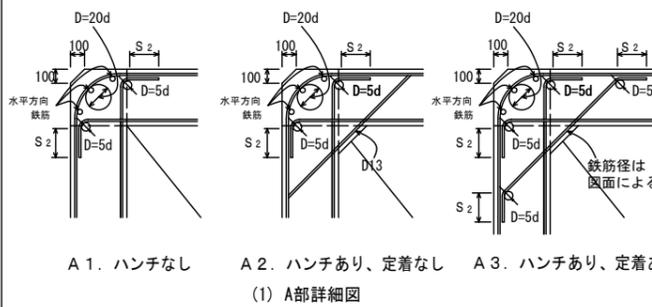
(A部及びC2部のD=20dは、D=5dとする。)

- (1) 壁と床版の交差部は、6. 4図及び6. 5図による。

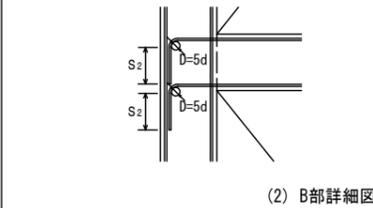


注1：重ね継手は、応力の小さい位置とする。

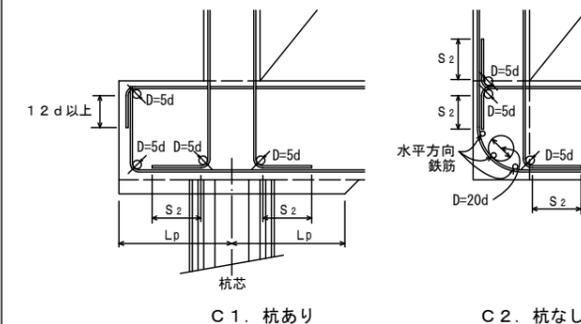
6. 4図 壁と床版・底版の交差部配筋要領図



A 1. ハンチなし A 2. ハンチあり、定着なし A 3. ハンチあり、定着あり
(1) A部詳細図

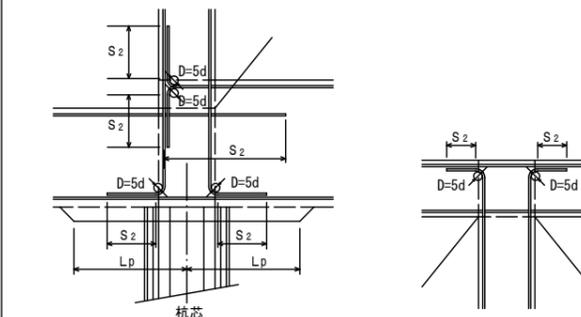


(2) B部詳細図



C 1. 杭あり C 2. 杭なし

(3) C部詳細図



※配筋要領は杭あり、杭なしとも同一

(4) D部詳細図 (5) E部詳細図

凡例

- ・D：鉄筋の曲げ内法直径
- ・d：鉄筋直径(呼び名)
- ・S1, S2：5. 1表のとおりであり、曲げ加工後の直線長で確保する長さ

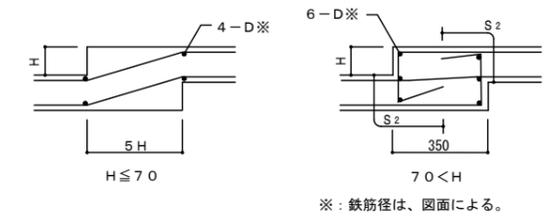
- 注1：A部以外においてハンチを設ける場合は、ハンチ筋についてA部に準じた配筋とする。
- 注2：ハンチを設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はA2を、図面に指示がある場合はA3を適用する。
- 注3：C部の杭なしの場合、及びD部において、底版上端筋の曲げ定着は下方に取ることを原則とするが、部材厚等の関係で直線状にS2定着長が確保できない場合は、上方に取ることでよいものとする。
- 注4：Lpは、場所打杭は1.0D(Dは杭径)以上、打ち込み杭・埋め込み杭にあっては、1.25D以上とする。

6. 5図 壁と床版・底版の交差部配筋詳細図

6. 2 床

6. 2. 1 段差床版の補強

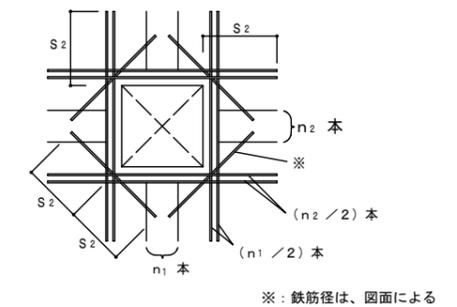
- (1) 同一床版に段差がある場合、6. 6図の補強を行う。



6. 6図 同一床版に段差がある場合の補強要領図

6. 2. 2 床版開口部の補強

- (1) 床版開口部の補強は開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅部には、斜め方向に主鉄筋径以上の鉄筋を上下筋の内側に配筋する。(6. 7図)

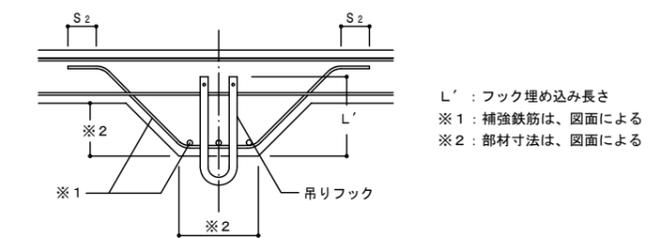


6. 7図 床版開口部の補強要領図

- (2) 開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6. 2. 3 吊りフックが取り付けられる場合の補強

- (1) 吊りフックが取り付けられる場合の補強は、6. 8図による。



6. 8図 吊りフック取り付け部補強要領図

- (2) 吊りフックの詳細は、「下水道施設標準図(詳細)土木・建築・建築設備編(日本下水道事業団編)」による。

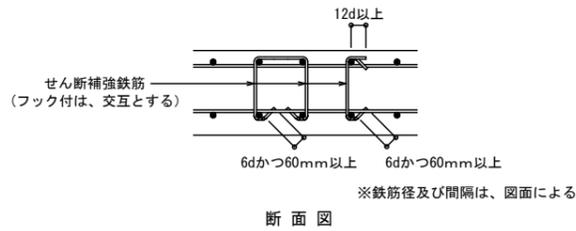
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内
図面名	構造細目共通図(2)
縮尺	— 図面番号 8/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課

6.3 せん断補強

6.3.1 底版、床版

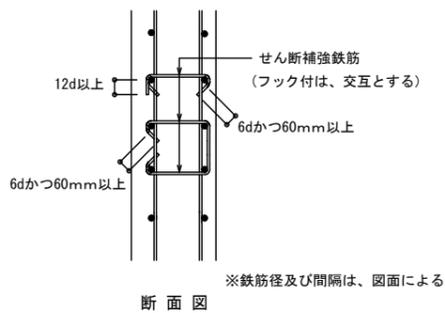
(1) 底版、床版のせん断補強要領は、6.9図及び6.11図による。



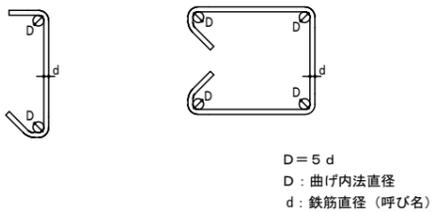
6.9図 底版・床版せん断補強要領図

6.3.2 壁

(1) 壁のせん断補強要領は、6.10図及び6.11図による。



6.10図 壁せん断補強要領図



6.11図 せん断補強加工要領図

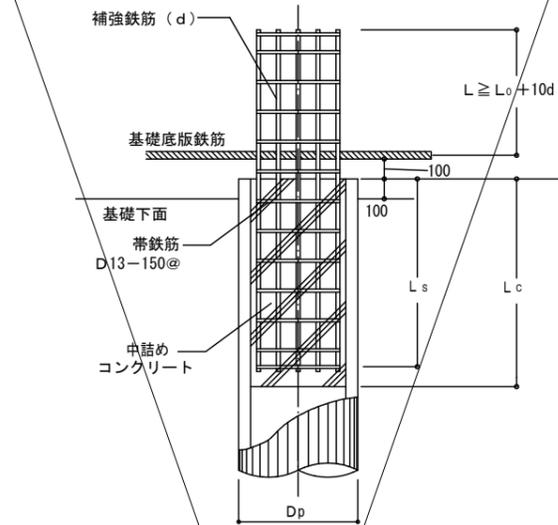
6.4 柱及び梁

(1) 柱及び梁を設ける場合の配筋要領は、図面による。

7 杭基礎の補強

7.1 一般事項

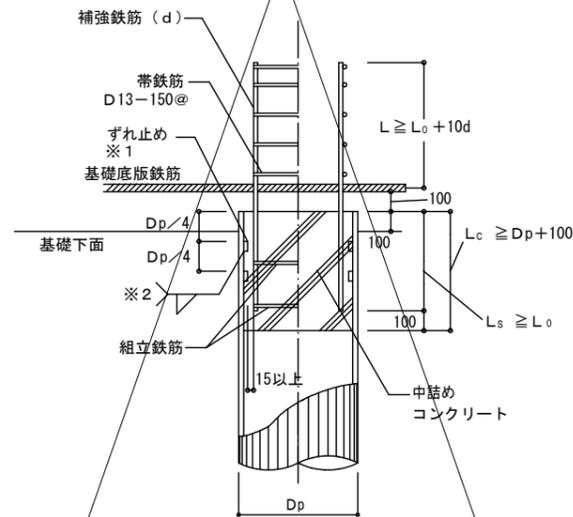
- (1) 中詰めコンクリートは、基礎と同じ仕様のコンクリートを使用する。
- (2) 補強鉄筋の径と本数は、図面による。
- (3) 杭基礎の補強鉄筋の必要定着長 L_s は、 $3.5d$ 以上とする。
- (4) 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、7.6図による。



杭頭処理形態	部材寸法	
カットオフする場合	鉄筋	$L_s \geq 50\phi + L_0$
	コンクリート	$L_c \geq 2.5D_p + 100$, かつ $50\phi + L_0 + (\text{被り } 100)$
カットオフしない場合	鉄筋	$L_s \geq L_0$
	コンクリート	$L_c \geq 2.5D_p + 100$, かつ $L_0 + (\text{被り } 100)$

注1. ϕ は、PC鋼棒径とする。

7.1図 PHC杭の杭頭補強



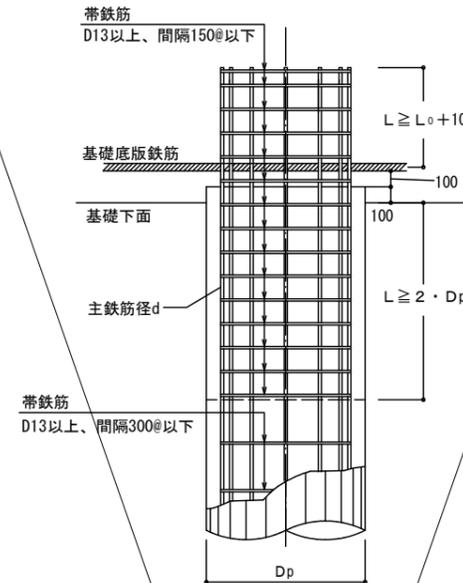
※1 : ずれ止めの大きさは、7.1表による。
※2 : 全周現場すみ肉溶接

7.2図 鋼管杭の杭頭補強

7.1表 杭体内外ずれ止めプレートの肉厚

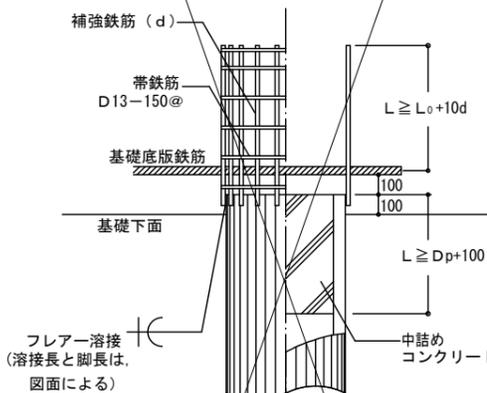
杭径 (D_p)	ずれ止め厚さ
$D_p < 800$	9
$800 \leq D_p < 1200$	12
$1200 \leq D_p < 1500$	16

※材質はSS400

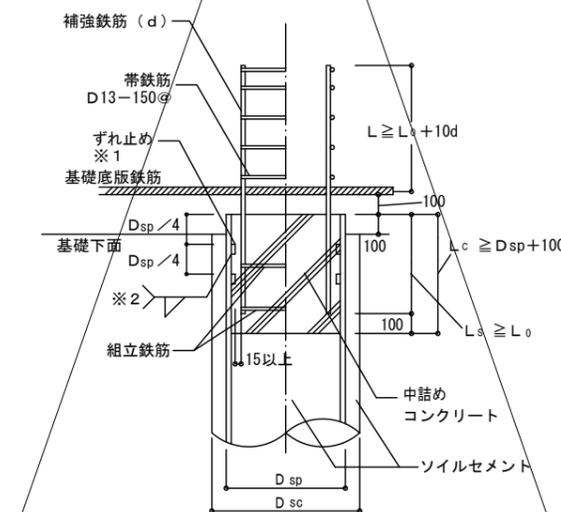


※ : 鉄筋径と間隔は図面による。

7.3図 場所打ち杭の杭頭補強

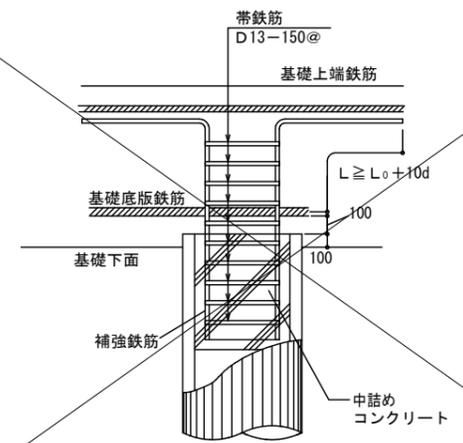


7.4図 SC杭の杭頭補強



※1 : ずれ止めの大きさは、7.1表による。
※2 : 全周現場すみ肉溶接

7.5図 鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強

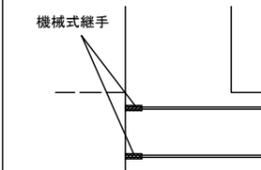
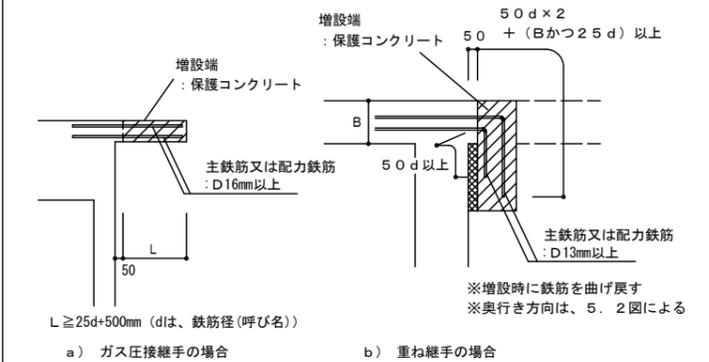


7.6図 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

8 増設予定端

8.1 増設予定端の配筋

- (1) 増設端鉄筋の継手工法は、D16以上をガス圧接、D13を重ね継手とすることを原則とし、8.1図のa) b)による。部材寸法及び鉄筋の径と間隔は図面による。
- (2) 増設端の鉄筋を保護するコンクリート強度は、 18 N/mm^2 とする。
- (3) D16以上の鉄筋について機械式継手を用いる場合は、8.1図のc)による。機械式継手の材料は「鉄筋継手指針(1982)」の規定に基づき評価を受けたものとする。



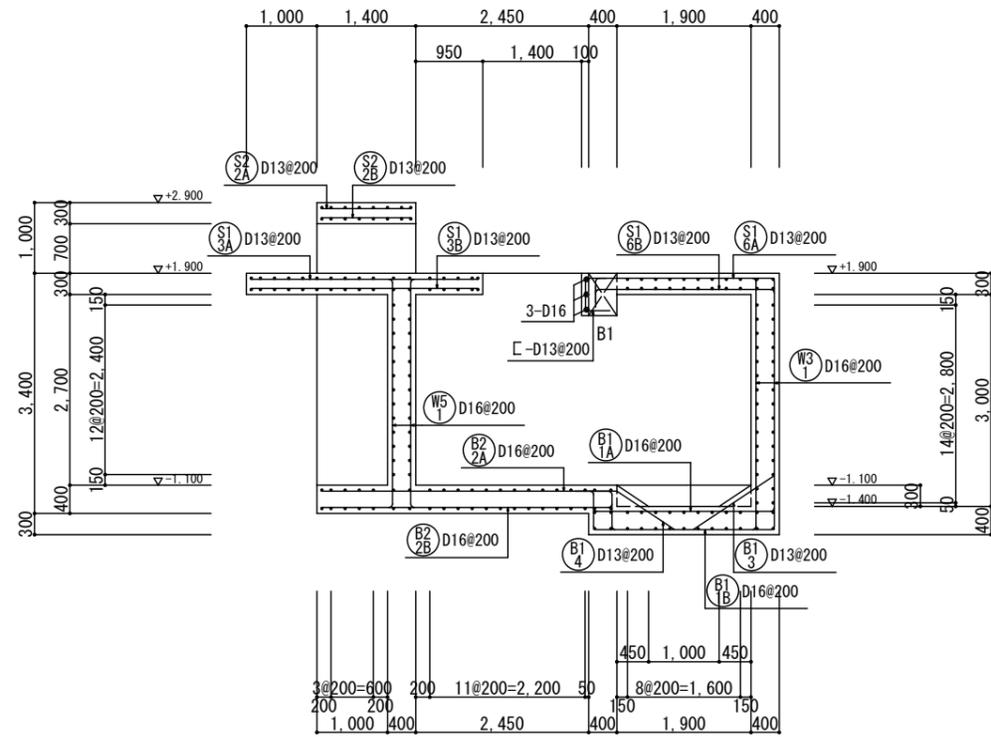
※鉄筋径は図面による。
※機械式継手は、D16mm以上を対象とする。

c) 機械式継手の場合

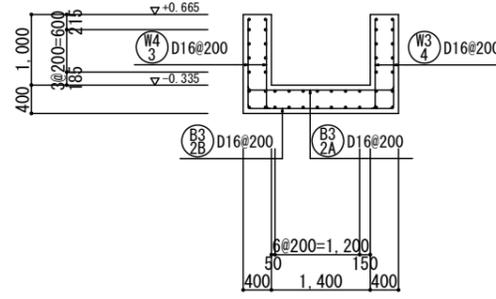
8.1図 増設予定端配筋要領図

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図面名	構造細目共通図(3)		
縮尺	—	図面番号	9/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		



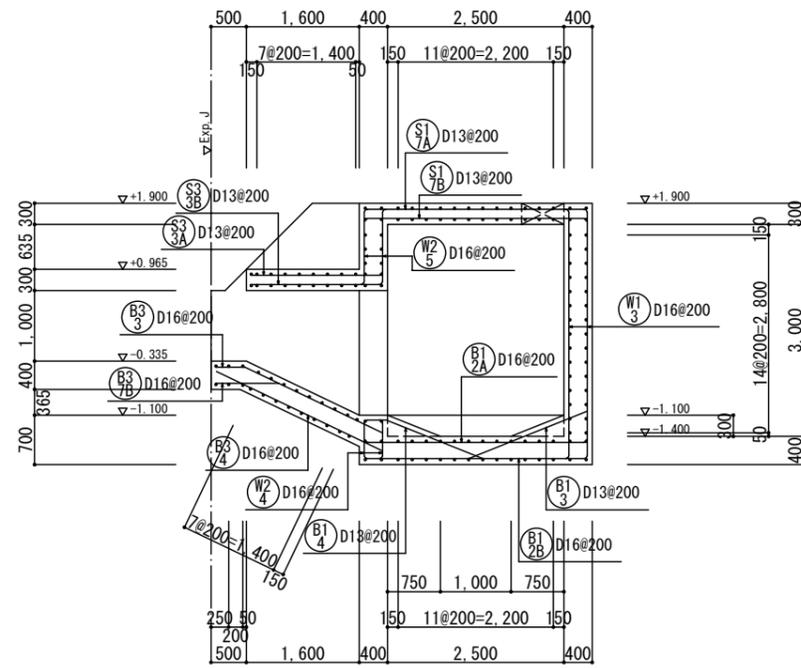
A-A 断面配筋図 1/50



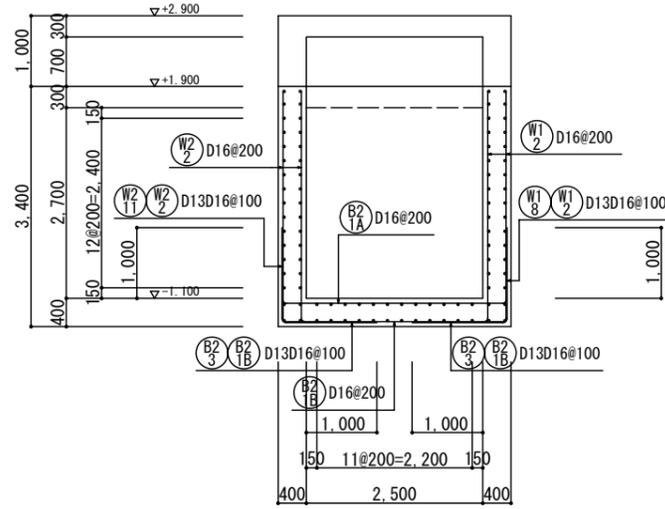
B-B 断面配筋図 1/50

小梁リスト 1/30

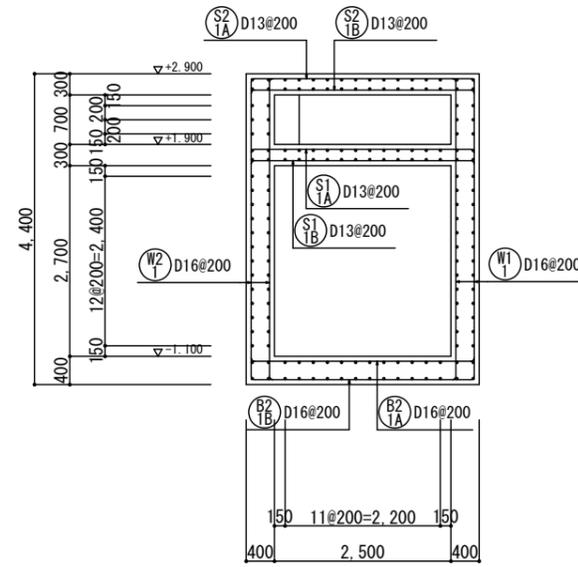
符 号	B1	
位 置	全断面	
断 面		
B × D	400 × 600	
上 端 筋	3-D19	
下 端 筋	3-D19	
スターラップ	□ 2-D13@200	
腹 筋	2-D13	
幅 止 筋	▽ D13@1,000	



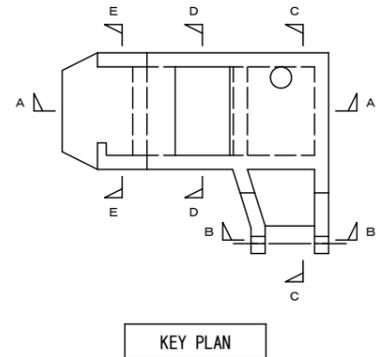
C-C 断面配筋図 1/50



D-D 断面配筋図 1/50



E-E 断面配筋図 1/50

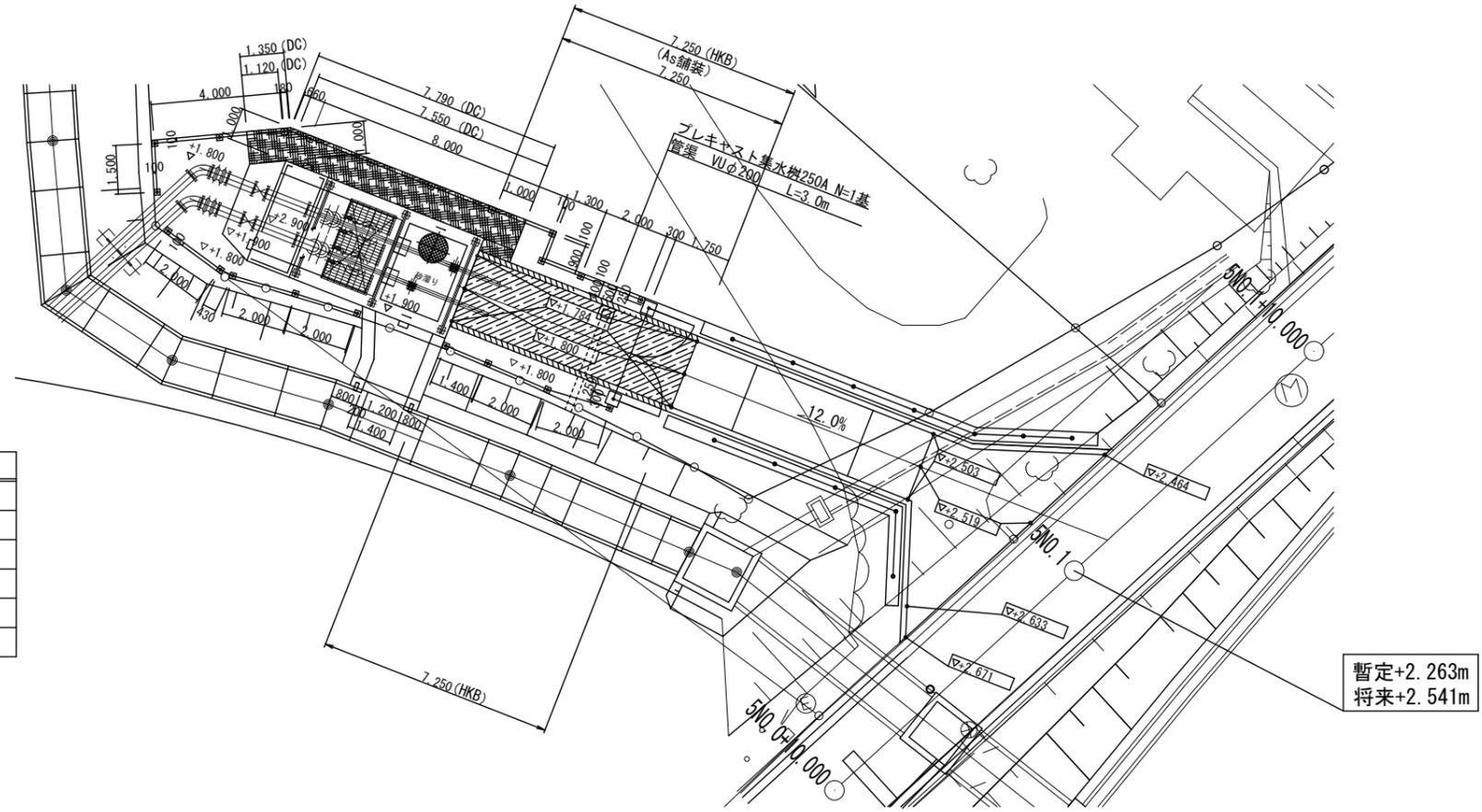


KEY PLAN

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工 事 名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図 面 名	配筋図(1)		
縮 尺	図示	図面番号	10/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		

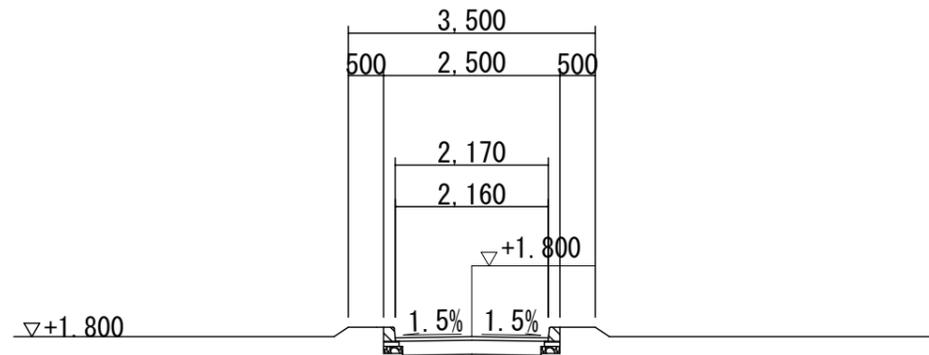
場内整備配置図
S=1:100



凡例

記号	名称	備考
	アスファルト舗装	
	歩車道境界ブロック	略号: HKB
	土間コンクリート (t=150mm)	略号: DC
	メッシュフェンス (H=1.80m)	門扉 W=3.00m
▽+1.800	計画レベル	

進入道路計画横断面図
S=1:50



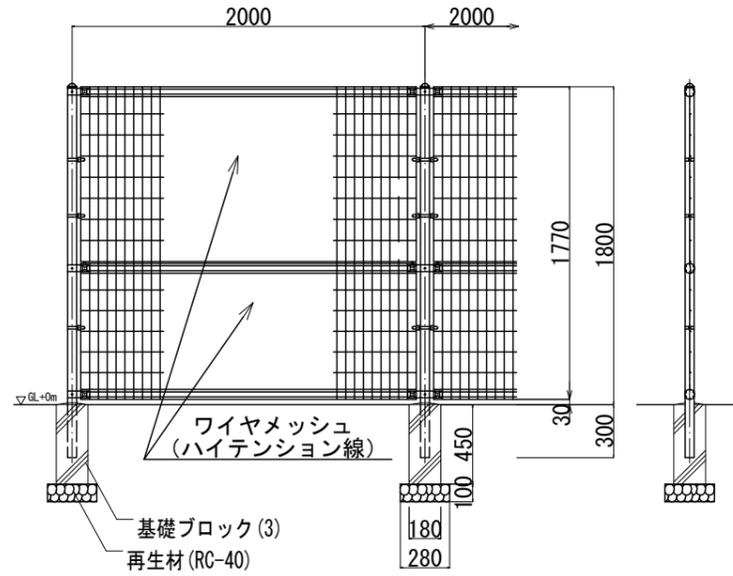
※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図面名	場内整備配置図		
縮尺	図示	図面番号	14/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		

場内整備詳細図

メッシュフェンス参考図

S=1:20



材料表 10m当り

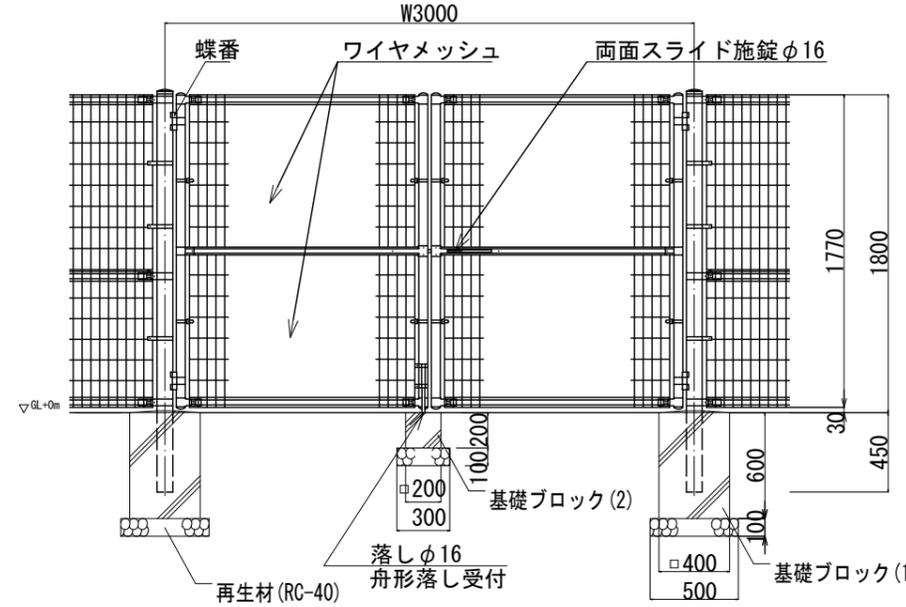
名称	規格	単位	数量
メッシュフェンス	H=1.80m	m	10.0

材料表 10箇所当り

名称	規格	単位	数量
基礎ブロック	180×180×450	個	10.0
基礎材	RC-40, t=100	m ²	0.78
基面整正		m ²	0.8

メッシュフェンス門扉参考図

S=1:20



材料表 10基当り

名称	規格	単位	数量
メッシュフェンス門扉	W3000 H=1.80m	基	10.0

材料表 10箇所当り

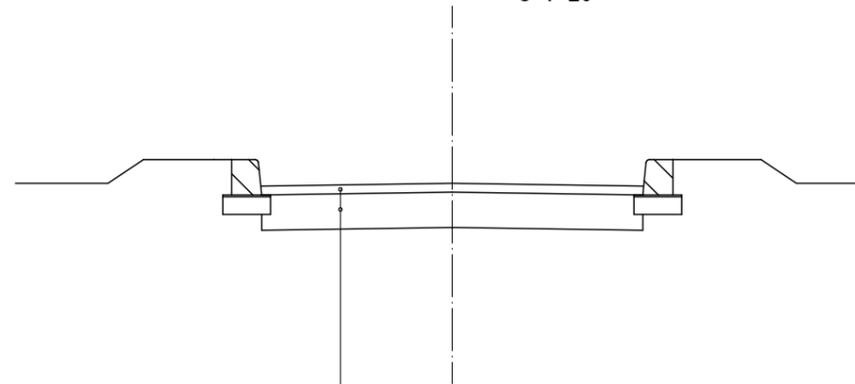
名称	規格	単位	数量
基礎ブロック	400×400×600	個	10.0
基礎材	RC-40, t=100	m ²	2.50
基面整正		m ²	2.5

材料表 10箇所当り

名称	規格	単位	数量
基礎ブロック	200×200×200	個	10.0
基礎材	RC-40, t=100	m ²	0.90
基面整正		m ²	0.9

車道舗装工

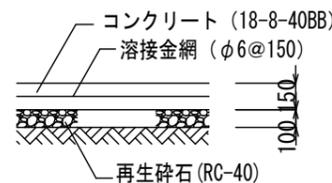
S=1:20



表層(再生密粒度As TOP13 2.35t/m ³)	t=50
プライムコート(PK-3)	
路盤(再生碎石 RC-40)	t=200

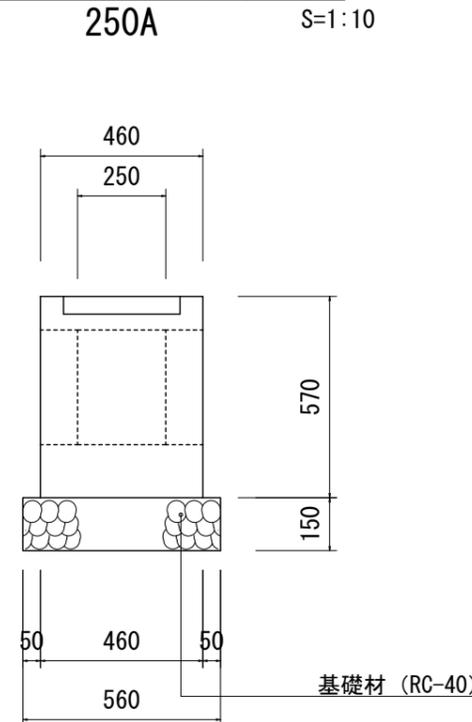
土間コンクリート標準図

S=1:20



プレキャスト集水桝参考図

S=1:10

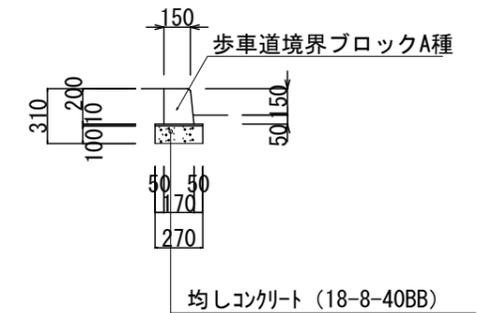


材料表 10基当り

名称	規格	単位	数量
プレキャスト集水桝	250A	基	10.0
基礎材	RC-40, t=150	m ²	3.14
基面整正		m ²	3.1

歩車道境界ブロック標準図

S=1:20



材料表 10m当り

名称	規格	単位	数量
歩車道境界ブロック	片面R, A種	個	16.5
敷モルタル	1:3	m ³	0.027
均しコンクリート	18-8-40BB	m ³	0.27
均し型枠		m ²	2.00
基面整正		m ²	2.7

※この図面はA1サイズを原寸とする。

工事名	平成29年度 下建下施公第1号 江戸橋第二排水機場躯体築造工事		
施工箇所名	津市江戸橋一丁目地内		
図面名	場内整備詳細図		
縮尺	図示	図面番号	15/15
事業所名	津市下水道局下水道建設課		